

環境文明 21 での活動を通して

フリシラ オン ワン イ (2024 年度インターン生)

光陰矢の如し、歳月は瞬く間に過ぎていくことをこの 8 か月間のインターン生活で体感しました。

最初は、大学の先生からご紹介いただいて CSO ラーニングのことを知り、挑戦するよう言われました。あの時の私は、環境や SDGs のことに深く興味を持っていましたが、多くの領域から自分が専攻したい方面はまだ絞っていませんでした。しかし、この分野の知識や実務経験を増やしたいと考えていたため、CSO ラーニングを申し込みました。そして、先生との相談や自分の研究を通じて、環境文明 21 は政策提言という強みを持っている NPO ということを知って、自分の視点や思考力を綿密にすることができ、各方面で自己成長の場であると考えました。

様々な活動を通じて、一番印象的だったのは初めて参加した 2024 年 6 月 4 日のシンポジウムです。この参加によって、いろいろな方々や関心者がいて、特にパネリストは気候変動やまっとうな気候政策に関連するテーマについて正しくかつ強い意志を皆さんに伝えていました。もし実際に視聴していただいたら、思考力をさらに深められたと思います。さらに、現在の社会状況がわかって、気候の重要性を強く意識する強いメッセージを受け取ることができました。気候とは人間社会の基盤であり、人間社会を支えている要素です。一方で、気候変動はその安定を脅かし、破壊する可能性があります。気候は私たちが最もコントロールしにくいものなので、壊し続けたくないでほしいです。気候であれ環境であれ、私たちは地球と共生して暮らしています。そのため、自分の利益を最大限にするために地球の自然の仕組みを強制的に変えたり、破壊したりして、自分本位の生活を築くべ

きではありません。こういう新しい認識を持ちながら私のインターンを始めました。また、最後の活動、全国交流大会で議論された持続可能性社会を実現するために「今だけ、金だけ、自分だけ」の意識から出て、「和の文化」と融合する論理性を広く発信したいです。現在の人間社会では、自然資源の浪費や過剰伐採、過剰汚染によって、CO₂ 排出量の限界やさまざまな環境問題が発生しています。このままでは、有限な時間、有限な資源が無限の人間の欲望に耐えられなくなってしまいます。そのため、今こそ、一般市民から政治家まで社会全体が意識や行動を変えるべき時です。

政治家の導きや政策決定、科学者や研究者の提案や課題研究、NPO や NGO の普及啓発、市民の協力や支持という全方面から、地球のため、環境のため、未来世代のために風潮を改革しなければなりません。

そのため、環境文明 21 の意志を伝承してほしいです。全世界に伝えることは難しいですが、我々から科学かつ正しい考え方を持って、一人から十人、十人から百人へと伝わるように広まり伝えて行きたいです。

毎回の活動を通して、分野や業界を問わず各々の知識を学び、それぞれの知識の点がつながり、網のように広がっています。しかし、自分が原因でその網の線が薄くなり、関連性の裏面にある価値観がわからないことがありました。自分の基盤や知識不足を意識しながら、改善策を見つけ、分析し、努力しています。また、諦めずに今できることをして、様々なものを吸収しインプットしながらそれを心に刻みます。そして、正しくかつ論理的な情報を周囲の人々に伝えていきます。もちろん、自分の思考力を上げるだけでなく、自分の声も上げていきます。